

## 潰瘍性大腸炎・クローン病の診断基準および重症度基準の改変

研究分担者 平井郁仁 福岡大学医学部消化器内科学講座 教授  
共同研究者 高津典孝、岸 昌廣 福岡大学筑紫病院消化器内科  
共同研究者 鈴木康夫 東邦大学医療センター佐倉病院 IBD センター

研究要旨：1．クローン病診断基準の改訂作業を平成 29 年度～令和元年度の年度毎に行ってきた。最新の診断基準は，2020 年 1 月 25 日改訂分である（別紙に全文を掲載）。2．潰瘍性大腸炎診断基準改訂作業を平成 29 年度～令和元年度の年度毎に行ってきた。最新の診断基準は，2020 年 1 月 25 日改訂分である（別紙に全文を掲載）。3．本プロジェクトでは，この他に炎症性腸疾患の疾患活動性指標集の改定，カプセル内視鏡など新規のモダリティによる診断，炎症性腸疾患の診断困難例（Inflammatory bowel disease unclassified, IBDU）の検討に取り組んできた。このうち，炎症性腸疾患の疾患活動性指標集は既に追加記載する指標の選定と改訂作業が終了しており，このプロジェクトの成果として 2020 年度に発刊を予定している。4．長期経過例の増加に伴い潰瘍性大腸炎，クローン病ともに予後に直結する悪性腫瘍の合併が問題となってきたが，本プロジェクトにおいて両疾患の癌サーベイランス方法の確立に向けた各個研究が進行中である。

今後の課題は，早期診断や診断精度の向上に寄与するクローン病および潰瘍性大腸炎の診断基準の作成，クローン病および潰瘍性大腸炎の治療指針やガイドラインを有効に活用する上での診断基準・重症度分類のあり方の模索，診断基準の国際的統一への試み，などがあげられる。診断基準・重症度分類は，疾患の取り扱いの根幹に関わるものであり，今後も研究班での継続した検討，意見集約および広報が望まれる。

### A．研究目的

本プロジェクト研究は Crohn 病（CD）と潰瘍性大腸炎（UC）の診断基準を臨床的あるいは病理組織学的に検討し，結果に応じて改訂することを目的とする。CD と UC の診療は日進月歩であり，新たに導入（保険承認）されたバイオマーカーや診断機器を反映させて基本的には毎年度改訂を行っていくことが望ましいと考えている。

### B．研究方法

#### 1．CD の診断基準改訂

診断基準改訂プロジェクト委員と協議し，さらに多くの班会議参加者（100 名以上）に意見を求め CD の診断基準を毎年度改訂している。

#### 2. UC 診断基準改訂

診断基準改訂プロジェクト委員と協議し，さらに多くの班会議参加者（100 名以上）に意見を求め UC の診断基準を毎年度改訂する。

#### 3．その他の診断基準・重症度分類に関する検討事項

炎症所見として赤沈に加え CRP を追加記載することを検討し，「潰瘍性大腸炎の臨床的重症度による分類の改定」を進めてきた。

「炎症性腸疾患の疾患活動性指標集」は，平成 21 年の発刊から 8 年が経過しており，新たな指標の追加や指標の使用頻度などの検討を行ってきた。

これまで新規の診断ツールが炎症性疾患の

診断に寄与するか否かを検討してきた。既にカプセル内視鏡所見を取り入れたクローン病診断基準の改定についてプロジェクト研究を行い、成果を報告した。また、「CD術後再発に関するカプセル内視鏡評価の意義に関する検討」を多施設共同試験として進行中である。

2017年に改訂されたクローン病および潰瘍性大腸炎の診断基準には従来の Indeterminate colitis (IC, 術後標本における病理組織学的診断における鑑別困難例)だけでなく、臨床的な診断困難例がIBDUと定義され、追加記載された。本プロジェクトでは診断基準の適正性や経過例の診断変更率などを明らかにする目的で「UC, CD, IBDU, ICにおける診断変遷症例の検討」を進行中である。

#### 4. 炎症性腸疾患における癌サーベイランス法の確立

「潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡におけるNBIと色素内視鏡の比較試験(Navigator Study)」に関しては、解析終了し、学会報告を行い、現在論文投稿予定である。

この他には、「潰瘍性大腸炎に対する癌サーベイランス法の確立-Target vs. Random生検のランダム化比較試験のフォローアップスタディー」、  
「潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡におけるNBIと色素内視鏡の比較試験(Navigator Study)の追加検討(Navigator 2)」、「Crohn病に合併した大腸癌のsurveillance program確立の検討の作成」に関するsurveillance programの検証「クローン病に関連する癌サーベイランス法の確立に向けて」、「潰瘍性大腸炎に対する癌サーベイランス法の確立-Target vs Random生検のランダム化比較試験」のフォローアップスタディーと4つの各個研究が進行中である。

(倫理面への配慮)

研究方法1, 2および3- , は、匿名化されたアンケートまたは、匿名化されたデータベ-

スによる全国調査が主体であるので倫理的問題はない。他のプロジェクト研究については倫理審査を通過したもののみを採択しており、倫理面には十分配慮している。

#### C. 研究結果

1. CD診断基準を改め、年度毎に改訂を行ってきた。

##### 1) 平成29年度の改訂点

診断の基準の副所見a. 消化管の広範囲に認める不整形~類円形潰瘍またはアフタの脚注9に「消化管の広範囲とは病変の分布が(胃と小腸, 十二指腸と大腸など)解剖学的に複数の臓器にわたる場合を意味する」を追記した。

##### 2) 平成30年度の改訂点

診断基準の主要事項(6)病理学的所見の脚注に追記(下線部)した。(註3)本症では縦列することがある。また、アフタの肛門側に縦走潰瘍が存在することが少なくない。

診断の基準の副所見副所見aの脚注へ追記した(下線部)。消化管の広範囲とは病変の分布が解剖学的に複数の臓器すなわち上部消化管(食道, 胃, 十二指腸), 小腸および大腸のうち2臓器以上にわたる場合を意味する。典型的には縦列するが、縦列しない場合もある。また、3ヶ月以上恒存することが必要である。なお、カプセル内視鏡所見では、十二指腸・小腸においてKerckring襞上に輪状に多発する場合もある。腸結核、腸管型ベーチェット病、単純性潰瘍、NSAIDs潰瘍、感染性腸炎の除外が必要である。

診断の基準の診断例{1}主要所見のAまたはBを有するものへの脚注に追記した(下線部)。縦走潰瘍のみの場合、虚血性腸病変や潰瘍性大腸炎を除外することが必要である。敷石像のみの場合、虚血性腸病変や4型大腸癌を除外することが必要である。

##### 3) 令和元年度の改訂点

主要所見A. 縦走潰瘍への脚注に追記した(下線部)。腸管の長軸方向に沿った潰瘍で、小腸の

場合は、腸間膜付着側に好発する。典型的には4-5cm以上の長さを有するが、長さは必須ではない。

2. UC診断基準を改め、年度毎に改訂を行ってきた。

#### 1) 平成29年度の改訂点

D. バイオマーカーによる活動性・重症度判定の項目を追加し、以下の文章を記載した。定量的免疫学的便潜血法や便中カルプロテクチンなどのバイオマーカーは活動性・重症度の判定に参考となる。

回腸嚢炎の診断基準 概念の項の大腸(垂)全摘術の記載を大腸全摘術に変更した。

#### 2) 平成30年度の改訂点

回腸嚢炎の診断基準に以下を追記した。抗菌剤をはじめとする治療に反応しない、治療薬剤の休薬が困難、年3回以上の回腸嚢炎による臨床症状の増悪がある症例は「難治例」と定義する。

J. 潰瘍性大腸炎術後症例の重症度基準を追加した。

概念と診断基準 潰瘍性大腸炎手術例のうち、以下の症例は術後生活の質(QOL)の低下がみられることから、通常術後治療に加えて新たな治療、または経過観察が必要であり、難治例としての積極的な治療の継続を必要とする症例である。

#### 1) 回腸嚢機能不全

頻回の排便、生活に支障をきたす漏便や排便困難(注17)、持続する肛門周囲瘻孔、骨盤内膿瘍の合併など。

#### 2) 難治性回腸嚢炎

慢性回腸嚢炎、頻回の回腸嚢炎、長期の治療継続例など(注18)。

#### 3) 難治性腸管外合併症(注19)

難治性壊疽性膿皮症、難治性ぶどう膜炎、治療継続が必要な末梢関節炎(関節リウマチ合併例を除く)など。

#### 4) 大腸以外の高度消化管病変

高度の十二指腸炎、小腸炎など。

#### 5) その他

頻回の脱水などの代謝性合併症など。

注17): 常時おむつの使用が必要で肛門周囲のびらんを伴う症例、狭窄などにより自然排便が困難な症例など。

注18): 1. 回腸嚢炎の診断基準の項、-2診断基準における「難治例」に相当する症例。

注19): 強直性脊椎炎、仙腸関節炎は指定難病271として追加申請する。また、術後改善しない成長障害は除く

\*: 人工肛門関連合併症、術後排尿障害は「ぼうこう又は直腸機能障害」で身体障害者の申請を行う。

#### 3) 令和元年度の改訂点

臨床的重症度分類にCRPの基準値を追記した。また、脚注に以下を追記した。注10) CRPの正常値は施設の基準値とする。注12) 中等症は重症と軽症の中間にあたるものとする。注13) 潰瘍性大腸炎による臨床症状(排便回数、顕血便)を伴わない赤沈やCRPの高値のみで中等症とは判定しない。

### 3. その他の診断基準・重症度分類に関する検討事項

#### 3-

前述のごとく、今回の潰瘍性大腸炎の診断基準の改訂では臨床的重症度分類にCRPの基準値を追記した。実際の数値については2006年の診断基準プロジェクトで検討した以下の結果を参照とした。1. 重症の基準の項目である赤沈30mm/1hrはCRP値では約3.0(2.77-3.18)mg/dlに相当する、2. 重症を規定するCRP値を3.0mg/dlとすると、感度は42%と高くはないものの、特異度は80%と高く、妥当であった。また、European Crohns and Colitis Organisation(ECCO)の基準も重症に相当するCRP値は3.0mg/dlに設定されており、今回はこの値を採択した。

#### 3-

既に「炎症性腸疾患の疾患活動性指標集」の改訂作業は終了しており、今後、診断基準改訂プロ

ジェクトの担当委員，研究班の班員に修正や追記の意見を求める作業を経て，2020年度の発刊を予定している。

3，4，5．

研究結果の一部（3- ， ）は本稿に記載したが，研究の詳細については各研究責任者が別個に報告予定である。既に「炎症性腸疾患の疾患活動性指標集」の改訂作業は終了しており，今後，診断基準改訂プロジェクトの担当委員，研究班の班員に修正や追記の意見を求める作業を経て，2020年度の発刊を予定している。

#### D．考察

1．現行のCDの診断基準は特に運用上の問題点はなく，この3年間において主要所見および副所見の項目に変更・修正は行っていない。しかしながら，細かい語句の修正や追記，さらに脚注により必要事項の解説を加えた．特にカプセル内視鏡など新規診断機器の導入に伴い，これらの所見を取り入れたことが改訂の主なポイントであった。

2．現行のUCの診断基準は特に運用上の問題点はなく，この3年間においてA.臨床症状，B.内視鏡検査，注腸X線検査およびC.生検組織学的検査の主要項目に変更・修正は行っていない。しかしながら，カルプロテクチンなど新規のバイオマーカーによる活動性・重症度の判定が可能となったこと，術後患者の重症度基準が存在しなかったこと，重症度基準の項目として取り上げられている赤沈値がほとんど測定されていない現状にあること，などを考慮して前述のように，いくつかの大幅な追記や臨床的重症度分類の項目にCRPを取り入れるなどの改訂を行った。

#### E．結論

診断方法や機器の進歩はめざましく，炎症性腸疾患の診断基準とその改訂は，逐次行うことが肝要である。また，重症度基準は，治療方法の選択に直結するため，診療の現状に配慮し，治療指針やガイドラインの記載内容にも有用な基準であ

る必要がある。また，長期罹患患者の増加に伴い増加し続ける癌の有効なサーベイランス方法の確立も急務である。以上を本プロジェクトの主軸として進めていきたい。

F．健康危険情報  
なし

#### G．研究発表

##### 1．論文発表

1. Inoue N, Kobayashi K, Naganuma M, Hirai F, Ozawa M, Arikan D, Huang B, Robinson AM, Thakkar RB, Hibi T. Long-term safety and efficacy of adalimumab for intestinal Behçet's disease in the open label study following a phase 3 clinical trial. *Intest Res.* 15(3):395-401,2017.
2. 平井郁仁．炎症性腸疾患における内視鏡治療のUp to date. *Ulcer Research.* 44:19-24,2017.
3. Hirai F. Current status of endoscopic balloon dilation for Crohn's disease. *Intest Res.* 15(2):166-173,2017.
4. 岸 昌廣、佐藤祐邦、高橋晴彦、武田輝之、高田康道、矢野 豊、平井郁仁．粘膜治癒の定義の実際と問題点. *IBD Research.* 11(3):143-153, 2017.
5. 安川重義、平井郁仁、高田康道、他．非特異性多発性小腸潰瘍症/CEASにおける十二指腸病変. *胃と腸.*52(11):1478-1483,2017.
6. Hirai F, Andoh A, Ueno F, et al. Efficacy of endoscopic balloon dilation for small bowel strictures in patients with Crohn's disease: A nationwide, multi-center, open-label, prospective cohort study. *J Crohns Colitis.* 12(4):394-401,2018.
7. Naganuma M, Aoyama N, Tada T, Kobayashi K, Hirai F, Watanabe K, Watanabe M, Hibi T. Correction to: Complete mucosal healing of distal lesions induced by twice-daily budesonide 2-mg foam promoted clinical

- remission of mild-to-moderate ulcerative colitis with distal active inflammation: double-blind, randomized study. *J Gastroenterol.* 53(4):579-581,2018.
8. Naganuma M, Aoyama N, Tada T, Kobayashi K, Hirai F, Watanabe K, Watanabe M, Hibi T. Complete mucosal healing of distal lesions induced by twice-daily budesonide 2-mg foam promoted clinical remission of mild-to-moderate ulcerative colitis with distal active inflammation: double-blind, randomized study. *J Gastroenterol.* 53(4):494-506,2018.
9. Hisamatsu T, Kunisaki R, Nakamura S, Tsujikawa T, Hirai F, Nakase H, Watanabe K, Yokoyama K, Nagahori M, Kanai T, Naganuma M, Michimae H, Andoh A, Yamada A, Yokoyama T, Kamata N, Tanaka S, Suzuki Y, Hibi T, Watanabe M; CERISIER Trial group. Effect of elemental diet combined with infliximab dose escalation in patients with Crohn's disease with loss of response to infliximab: CERISIER trial. - *Intest Res.* 16(3):494-498,2018.
10. Yasukawa S, Matsui T, Yano Y, Sato Y, Takada Y, Kishi M, Ono Y, Takatsu N, Nagahama T, Hisabe T, Hirai F, Yao K, Ueki T, Higashi D, Futami K, Sou S, Sakurai T, Yao T, Tanabe H, Iwashita A, Washio M. Crohn's disease-specific mortality: a 30-year cohort study at a tertiary referral center in Japan. - *J Gastroenterol.* 54(1):42-52,2018.
11. Koga A, Matsui T, Takatsu N, Takada Y, Kishi M, Yano Y, Beppu T, Ono Y, Ninomiya K, Hirai F, Nagahama T, Hisabe T, Takaki Y, Yao K, Imaeda H, Andoh A. Trough level of infliximab is useful for assessing mucosal healing in Crohn's disease: a prospective cohort study. - *Intest Res.* 16(2):223-232,2018.
12. Ninomiya K, Hisabe T, Okado Y, Takada Y, Yamaoka R, Sato Y, Kishi M, Takatsu N, Matsui T, Ueki T, Yao K, Hirai F. Comparison of Small Bowel Lesions Using Capsule Endoscopy in Ulcerative Colitis and Crohn's Disease: A Single-Center Retrospective Analysis. - *Digestion.* 98(2):119-126,2018.
13. Matsuoka K, Kobayashi T, Ueno F, Matsui T, Hirai F, Inoue N, Kato J, Kobayashi K, Kobayashi K, Koganei K, Kunisaki R, Motoya S, Nagahori M, Nakase H, Omata F, Saruta M, Watanabe T, Tanaka T, Kanai T, Noguchi Y, Takahashi KI, Watanabe K, Hibi T, Suzuki Y, Watanabe M, Sugano K, Shimosegawa T. Evidence-based clinical practice guidelines for inflammatory bowel disease. - *J Gastroenterol.* 53(3):305-353,2018.
14. Umeno J, Esaki M, Hirano A, Fuyuno Y, Ohmiya N, Yasukawa S, Hirai F, Kochi S, Kurahara K, Yanai S, Uchida K, Hosomi S, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Nagayama M, Yamamoto H, Abukawa D, Kakuta F, Onodera K, Matsui T, Hibi T, Yao T, Kitazono T, Matsumoto T; CEAS study group. Clinical features of chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene: a new entity clinically distinct from Crohn's disease. - *J Gastroenterol.* 53(8):907-915, 2018.
15. Hirai F, Andoh A, Ueno F, Watanabe K, Ohmiya N, Nakase H, Kato S, Esaki M, Endo Y, Yamamoto H, Matsui T, Iida M, Hibi T, Watanabe M, Suzuki Y, Matsumoto T. Efficacy of Endoscopic Balloon Dilatation for Small Bowel Strictures in Patients With Crohn's Disease: A Nationwide, Multi-centre, Open-label, Prospective Cohort Study. - *J Crohns Colitis.* 12(4):394-401,2018.
16. Esaki M, Matsumoto T, Ohmiya N, Washio E, Morishita T, Sakamoto K, Abe H, Yamamoto S, Kinjo T, Togashi K, Watanabe K, Hirai F,

- Nakamura M, Nouda S, Ashizuka S, Omori T, Kochi S, Yanai S, Fuyuno Y, Hirano A, Umeno J, Kitazono T, Kinjo F, Watanabe M, Matsui T, Suzuki Y. Capsule endoscopy findings for the diagnosis of Crohn's disease: a nationwide case-control study. - J Gastroenterol. 54(3):249-260,2019.
17. Hirai F, Ishida T, Takeshima F, Yamamoto S, Yoshikawa I, Ashizuka S, Inatsu H, Mitsuyama K, Sou S, Iwakiri R, Nozaki R, Ohi H, Esaki M, Iida M, Matsui T; Additional Power of Elemental Diet on Maintenance Biologics Therapy in Crohn's Disease (ADORE) Study Group. Effect of a concomitant elemental diet with maintenance anti-tumor necrosis factor- antibody therapy in patients with Crohn's disease: A multicenter, prospective cohort study. - J Gastroenterol Hepatol. 34(1)132-139,2019.
18. Hirai F, Takeda T, Takada Y, et al. Efficacy of enteral nutrition in patients with Crohn's disease on maintenance anti-TNF-alpha antibody therapy: a meta-analysis. - J Gastroenterol. 55(2):133-141,2019.
19. Matsuno Y, Umeno J, Esaki M, Hirakawa Y, Fuyuno Y, Okamoto Y, Hirano A, Yasukawa S, Hirai F, Matsui T, Hosomi S, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Yanai S, Kochi S, Kurahara K, Yao T, Torisu T, Kitazono T, Matsumoto T.- Measurement of prostaglandin metabolites is useful in diagnosis of small bowel ulcerations.25(14):1753-1763,2019.
20. Hisamatsu T, Kato S, Kunisaki R, Matsuura M, Nagahori M, Motoya S, Esaki M, Fukata N, Inoue S, Sugaya T, Sakuraba H, Hirai F, Watanabe K, Kanai T, Naganuma M, Nakase H, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Nojima M, Matsumoto T, DIAMOND2 Study Group- J Gastroenterol . 54(10):860-870,2019.
21. Yoshimura N, Yokoyama Y, Sako M, Aoyama N, Hirai F, Sawada K, Kashiwagi N, Suzuki Y.- Development of a C1q-immobilized(Cim) assay to measure total antibodies to infliximab and its clinical relevance in patients with inflammatory bowel disease- Cytokine. 120:54-61,2019.
22. 平井郁仁 . 潰瘍性大腸炎の診断基準 Japanese Diagnostic Criteria of Ulcerative Colitis-臨牀消化器内科 . 34(7):774-778,2019.
23. 平井郁仁 . 下痢をきたす疾患の診療 炎症性腸疾患-臨牀と研究 . 96(11):6-13,2019.
24. 平井郁仁 . 炎症性腸疾患の内科治療-消化器外科 . 42(12):1645-1652,2019.
2. 学会発表
1. 山崎一朋、平井郁仁、久部高司、他. 潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡の有用性についての検討. 第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会(福岡) 2017年5月19日-20日
2. Takada Y, Yasukawa S, Beppu T, Kishi M, Yano Y, Hirai F. Therapeutic efficacy and predictors of efficacy of infliximab in the treatment of refractory ulcerative colitis. AOCC(Seoul), 2017年6月15日
3. Yasukawa S, Yano Y, Takada Y, Kishi M, Beppu T, Hisabe T, Takaki Y, Hirai F, Yao K, Ueki T, Matsui T. Clinical outcome and predictive factors influencing the efficacy of biological agents for intestinal Beçet disease . AOCC (Seoul), 2017年6月15日
4. Beppu T, Yasukawa S, Yamasaki K, Yano Y, Hirai F, Yao K, Ueki T, Matsui T, Hirano Y, Higashi D, Futami K, Chuman K, Tanabe H, Iwashita A. Clinical and pathological features of 4 cases of small intestinal cancer occurring in association with Crohn's disease, AOCC (Seoul), 2017年6月15日
5. 平井郁仁、矢野 豊、岸 昌廣. クロウン病

狭窄病変に対する内視鏡的バルーン拡張術の有用性 . JDDW(福岡) , 2017 年 10 月 12 日-15 日

6. 岸 昌廣、平井郁仁、矢野 豊、他 .

3.2 鉗子チャンネル搭載 DBE を使用した EBD の有用性に関する検討 . JDDW(福岡) , 2017 年 10 月 12 日-15 日

7. 渡辺憲治、大宮直木、平井郁仁、松井敏幸 . クロウン病診断におけるカプセル内視鏡の有用性 : J-POP Study 追加検討から . 第 55 回日本小腸学会(京都) , 2017 年 10 月 21 日

8. 別府剛志、山崎一朋、武田輝之、矢野 豊、平井郁仁、八尾建史、植木敏晴、松井敏幸、平野由紀子、東大二郎、二見喜太郎、中馬健太、田邊寛、岩下明德 . 術後病理組織検査にて診断し得たクローン病に合併した早期小腸癌の 2 例 . 第 55 回日本小腸学会(京都) , 2017 年 10 月 21 日

9. 平井郁仁、岸 昌廣、高田康道、武田輝之、佐藤祐邦、別府剛志、矢野 豊 . クロウン病狭窄病変に対する内視鏡的バルーン拡張術の有用性 . 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会(福岡) 2017 年 11 月 10 日-11 日

10. 矢野 豊、高田康道、武田輝之、別府剛志、佐藤祐邦、岸 昌廣、平井郁仁、八尾建史、松井敏幸、植木敏晴 . アダリムマブのクローン病に対する長期成績と効果減弱例に対する倍量投与の治療成績 - 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会(福岡) , 2017 年 11 月 10 日-11 日

11. 渡辺憲治、西下正和、嶋本文雄、福知 工、江崎幹宏、岡 志郎、藤井茂彦、平井郁仁、井上拓也、樋田信幸、野崎良一、櫻井俊治、竹内 健、猿田雅之、斎藤彰一、斎藤 豊、大宮直木、味岡洋一、川野怜諸、田中信治 . 潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡における NBI 観察と色素内視鏡観察のランダム化比較試験 : Navigator Study . - 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会(福岡) 2017 年 11 月 10 日-11 日

12. 山崎一朋、平井郁仁、久部高司 他 . 潰瘍性大腸炎における Low grade dysplasia の取り扱いと経過 . 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会

(福岡) , 2017 年 11 月 10 日-11 日

13. 武田輝之、二宮風夫、久部高司、大門裕貴、高田康道、山岡梨乃、金城 健、佐藤祐邦、岸 昌廣、高津典孝、矢野 豊、平井郁仁、松井敏幸、八尾建史、植木敏晴 . カプセル内視鏡による潰瘍性大腸炎と Crohn 病の小腸病変の評価 . 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会(福岡) , 2017 年 11 月 10 日-11 日

14. 小島俊樹、長濱 孝、平井郁仁、八尾建史、植木敏晴、松井敏幸 . 当院における難治性クローン病に対するウステキヌマブの使用経験 . 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会(福岡) , 2017 年 11 月 10 日-11 日

15. 宇野駿太郎、武田輝之、高田康道、山崎一朋、安川重義、別府剛志、岸 昌廣、矢野 豊、平井郁仁、八尾建史、植木敏晴、松井敏幸、平野由紀子、東大二郎、二見喜太郎、中馬健太、田邊寛、岩下明德 . クロウン病に合併した早期小腸癌の一例 . 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会(福岡) , 2017 年 11 月 10 日-11 日

16. 別府剛志、矢野 豊、平井郁仁 他 . クロウン病に合併した小腸癌の臨床的特徴 . 第 110 回日本消化器病学会九州支部例会(沖縄) , 2017 年 11 月 17 日-18 日

17. 平井郁仁、矢野 豊、岸 昌廣 . クロウン病の寛解維持治療における栄養療法の有用性と限界 - 抗 TNF- 抗体との併用例を中心に - . 第 21 回日本病態栄養学会(京都) , 2018 年 1 月 12-14 日

18. Fukushima Y, Kishi M, Yano Y, Hirai F, Ueki T. Use of ustekinumab in patients with refractory Crohn's disease at our hospital. AOCC2018 (上海) 2018 年 6 月 21 日-23 日

19. Kishi M, Hirai F, Yano Y, Takatsu N, Takada Y, Takeda T, Yao K, Ueki T. A Prospective Study to Assess the Effectiveness of Tacrolimus Therapy in Ulcerative Colitis. AOCC2018 (上海) 2018 年 6 月 21 日-23 日

20. 高田康道、平井郁仁、武田輝之、別府剛志、

岸 昌廣、矢野 豊、八尾建史、植木敏晴. 当院における難治性クローン病に対する Ustekinumab の使用経験. JDDW2018(神戸)2018年11月1日-4日

21. Takeda T, Hirai F, Takatsu N, Kishi M, Beppu T, Yao K, Ueki T. Long-term outcomes of endoscopic balloon dilation for small-bowel strictures using double balloon enteroscopy in patients with Crohn's disease. ECCO2019 (コペンハーゲン) 2019年3月6日-9日

22. Kishi M, Hisabe T, Takatsu N, Koga A, Yasukawa S, Takeda T, Yao K, Ueki T. Outcomes of endoscopic balloon dilation for small-bowel strictures using double balloon enteroscopy in patients with Crohn's disease. -A single center, retrospective study- AOCC2019 (台湾) 2019年06月14日-19日

23. Bruce E. Sands, William J. Sandborn, Laurent Peyrin-Biroulet, Peter DR Higgins, Fumihito Hirai, Vipul Jairath, Ruth Belin, Yan Dong, Elisa Gomez Valderas, Debra Miller, MaryAnn Morgan-Cox, April N. Naegeli, Paul Pollack, Jay Tuttle, Toshifumi Hibi. Impact of Mirikizumab Treatment on Inflammatory Bowel Disease Questionnaire Scores in Patients With Moderate to Severely Active Crohn's Disease. 27th UEGW2019 (バルセロナ) 2019年10月19日-23日

24. Takatsu N, Takeda T. Kishi M, Hisabe T, Yao K, Ueki T. Clinical outcome with Ustekinumab in medically-refractory Crohn's disease: real world experience from a single center cohort . JDDW2019 (神戸) 2019年11月21日-24日

25. 阿部光市、今給黎宗、松岡弘樹、向坂秀人、松岡 賢、萱嶋善行、久能宣昭、石橋英樹、船越禎広、竹田津英稔、平井郁仁 . 迅速に行った小腸カプセル内視鏡検査が診断に有用であった小腸

動静脈奇形の一例. 第13回日本カプセル内視鏡学会総会(姫路)2020年2月9日

26. 平井郁仁, Bruce E Sands, William J. Sandborn 他. Mirikizumab(抗 IL23p19 抗体製剤)の日本人を含むクローン病(CD)患者での第 相試験の12週の有効性及び安全性. 第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会(福岡)2019年11月29日

27. 平井郁仁、宇田晃仁、田中圭祐 . 大規模診療データ解析からみた本邦のクローン病治療及び診断の実態. 第27回日本消化器関連学会週間 (JDDW2019)(神戸) 2019年11月21日-24日

28. 今給黎 宗、松岡弘樹、向坂秀人、松岡 賢、萱嶋善行、久能宣昭、阿部光市、船越禎広、石橋英樹、竹田津英稔、平井郁仁 . 回腸末端に高度の潰瘍性病変を認めた IgA 血管炎の一例. 第57回日本小腸学会学術集会(大阪)2019年11月9日

29. 久能宣昭、今給黎 宗、松岡弘樹、向坂秀人、松岡 賢、萱嶋善行、阿部光市、船越禎広、石橋英樹、竹田津英稔、平井郁仁 . 直腸尿道瘻を伴うクローン病に対しウステキヌマブを投与し、外科的治療が回避できた1例. 第114回日本消化器病学会九州支部例会(宮崎)2019年11月8日-9日

30. 柴田 衛、久能宣昭、阿部光市、北口恭規、松岡弘樹、今給黎 宗、向坂秀人、松岡 賢、萱嶋善行、船越禎広、石橋英樹、竹田津英稔、平井郁仁 . 典型的な全身症状を欠き、診断に難渋したループス腸炎の一例. 第114回日本消化器病学会九州支部例会(宮崎)2019年11月8日-9日

31. 岸 昌廣、久部高司、高津典孝、古賀章浩、武田輝之、安川重義、八尾建史 . 当院における難治性潰瘍性大腸炎患者に対するタクロリムス療法の治療成績～単施設後ろ向き研究～ JSIBD2019 (福岡) 2019年11月29日-30日

H . 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1 . 特許取得 なし



2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし